





文化十五

戊寅

年

小千谷

織屋忠藏主

實語童子二教舊未尚行而所以教訓於童  
蒙之書也為其書也以五言而句局之甚  
書伽陀之一體也或擦撫乎經論之要辭或  
蒐輯乎聖賢之卮言能仁律語仲尼庭訓頗  
在茲矣可謂頑魯趣學路之司南幼童免塗  
炭之絀纜也夫以千里之行始於發足萬丈  
之山成於一篲縱使雖此卷野語之書載道  
之器也奚可忽諸茲紀躬淨福寺覺賢惠空  
和上其先能躬之人姓木曾氏民部郷某裔



也自髫髻之年聰敏過人焉洎十有餘歲早  
就於族兄善覺正惠和上時習軒而學佛儒  
之二道照照乎探鈞於釋教之玄蹟且世典  
九流亦莫不涉獵焉越年二十四之夏俄然  
悟舊宗不契當佛理而遂登比叡山入台宗  
門猶亦逢于權僧正大和尚位憲海而聞顯  
密之教法受圓頓之大戒所謂卓然梗正不  
偶時流其志確乎不拔也予去歲之春訪彼  
和上曲肱亭和上謂予我昔年志學之日得

三餘之暇而為實語童子二教形註解之詞  
未果而已矣故徒執敝袂兮蛛網縷之耳予  
取而觀之援引書典幾一萬卷文理易曉諺  
解易讀寔是二教雙翼也僅十有五歲而作  
為之顧其奇矣雖然藏諸書囊之中不傳未  
聞之人如衣錦夜行可勝惜哉冀投之予手  
須授梓工行後代而已和上聞而諾焉予退  
而書寫於二編註解改片假字作平假字間  
亦竊附已意而補之晦朔屢更二卷遂就嘍



予管見俚語為之綴緝也非管不免<sup>ス</sup>乱<sup>シ</sup>苗<sup>ヲ</sup>  
妄續紹之僭殆惠空上人之罪人也雖然誠  
勸<sup>ス</sup>於天下后世之童蒙則愚昧之筆耕豈固  
辭哉因述一序以弁卷首云昔寬文己酉孟  
冬朔且招月亭孤峯識<sup>ス</sup>

# 美後文讀



予の判とほりては三つの目くらありひるひるは作ふ  
といやうぐんしふあはれ題の名とほりて  
めはな文と細抄もともめは作ふといやうぐんは二  
の判はいまも作ふは由びうくはせず世人はては  
いまは弘法大師の作なりとの判うくはせしは  
幽雅靈集等といはれはつたまひむたはつた  
ふまは文といはれはつたまひむたはつた  
ころあまは弘法大師の作なりとの判うくはせしは  
ごも好むの人とみらびんあめはつたまひむたはつた  
ごも好むの人とみらびんあめはつたまひむたはつた  
くありて二は題の名とほりてはつたまひむたはつた







發侯李勢及漢北虞延等もこれ方智の肥る有り  
と史書小のせこれとせめても思ふるなりて聖賢の名は  
うらにありすいあゝ光輝高湯文武周公孔子にほれも方乃  
ら思ふるや名あるはけりすゝ方智恵のありけりけり  
後孔位のみらもけりけりありされども經典に智はけり  
もけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
し智とや思はけりけりけりけりけりけりけりけり  
細へけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
荀子曰是是非非謂之智雲峯胡氏曰智則心  
之神明所以妙衆  
理而宰萬物者也

富は一生の成

身滅り共滅

智は萬代の成

命終即隨

富は一生の成と云ふは富と云ふは成と云ふは  
へある人といふなり海濱の皇侃が疏に成は成るといふ  
あり聖賢衣食小たぬしと云ふは成と云ふは成と云ふは  
一生の成と云ふは成と云ふは成と云ふは成と云ふは  
らせと云ふは成と云ふは成と云ふは成と云ふは成と云ふは  
くは智恵ありけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
りなるもと智恵と云ふは成と云ふは成と云ふは成と云ふは  
ちと云ふは成と云ふは成と云ふは成と云ふは成と云ふは

白樂天曰金是財終以成他物智是宝亦宝後必  
生佛國花嚴經普賢行願品云至臨命終時乃至  
珍寶伏藏無復相隨云云















このほど大がいにくよなうくゆく次の句よふ神教の語を  
神へあゆみいなり何言句解士因縁終人の老穢女志多とい  
ふ穢の事なりていふ事ありきれはあはれきこと  
まごといは立穢六穢七穢八穢あうくくなる時疇と  
字の教とことふ文字もちらんでいふなりべし

# 幼時不勤字

# 老に悔

# 尚や有所益

幼時と人いふ事そそ十歳よ  
ならずれと幼といふ事なり  
池の曲礼よみそくうにまゝ人十歳のちがはるがうんと  
とむづこさうりなりそそ十歳のちがはるがうんと  
てハ氣よるれがまが池後の作法多樂のたゆむ所  
といふがうなるたゆむのさうくことそそくは法とま

かうかへいひるなりこれとふ事よるといふなりさそそ十歳  
めをかたがたそそとむづこさうりなりそそ十歳のちがはるがうんと  
とむづこさうりなりそそ十歳のちがはるがうんと  
道月どのがうとむづこさうりなりそそ十歳のちがはるがうんと  
ひくはらうとむづこさうりなりそそ十歳のちがはるがうんと

沈休文長行歌曰少壯不努力老大徒悲傷陶淵  
明雜詩曰盛年不重來一日難再晨及時當勉勵  
歲月不待人司馬溫公勸學歌云汝等各早脩莫  
待老來徒自悔

# 故讀書勿倦

# 學文勿怠時

# 除眼通夜誦

# 忠飢洗日習







ハ古史考よ神農のいどりて多とそくしんくしんせ  
よられありし世取め後翻多とけらるるをさうり

惟習演不復 只如討隣伐

海峽は海を隔ててありて、國はわたりて、これに  
とひ脚ふあひくまひむにひしてさふひよしとそ  
まほひふそのしとほひねあひくひしてさふひよ  
せねば、さうりて、これに、さうりて、これに、  
と、さうりて、これに、さうりて、これに、  
じう、衆の人、うんれ、ゆ、さうりて、これに、  
い、人、ふ、し、ね、さうりて、これに、  
へり、その、と、え、れ、衆、人、あ、ひ、ふ、さ、う、り、て、  
ふ、り、さうりて、これに、さうりて、これに、

此のよきとあはれめる契と道ふてひ海ひさうり、これゆ  
へまい息とこさうりて、これに、さうりて、これに、  
ると、いつり、庸、汝、が、は、衆、衆、め、さうりて、これに、  
衆、衆、め、さうりて、これに、さうりて、これに、  
は、これ、の、衆、衆、め、さうりて、これに、  
と、衆、衆、め、さうりて、これに、さうりて、これに、  
と、衆、衆、め、さうりて、これに、さうりて、これに、

天台大帥文句云日夜數他寶自無半錢分亦  
華嚴經及小止観并證道歌等有似之文矣

君子也也智者 小人也也福人

君子は徳ありて人位ありて、小人は徳なくして人位ありて、  
君子は徳ありて人位ありて、小人は徳なくして人位ありて、



論語里仁篇曰君子懷德小人懷土君子懷刑小人懷惠又云君子喻於義小人喻於利皇侃疏云喻曉也君子所曉於仁義小人所曉於財利故范甯云棄貨利而曉仁義則為君子曉貨利而棄仁義則為小人揚子法言卷一學行篇云太人之學為道也小人之學為利也子為道乎為利乎

唯入多名家

為世成念

猶如霜下花

子思子入部尚書鼎

文選潘岳西征賦曰危冬花待霜獲虎尾不墜

唯亦多負後門

為有智人志

宛如泥中蓮

賢者之自儆後成疏小

位之... 賢者之自儆後成疏小... 賢者之自儆後成疏小... 賢者之自儆後成疏小...











省の存とつしとあると、はよく父母よりふまらるるといふと、  
雅のちりあしとく、この定省とあり、禮記曲禮上篇、  
より人れ、この礼は、父母のゆり、とわて、め、父母のゆり  
と、も、ち、す、ゆ、た、ふ、と、い、れ、  
これと定省といふ、この礼、  
神、このい、  
国語、晉語、篇、曰、  
教、之、君、食、之、云、云

### 交友勿律事

友とん、  
後、友人と、  
さ、  
さ、

### 兄己盡礼教

### 身己致孝親

禮記曲禮曰、在醜夷、不爭、論語曰、君子無所爭、中阿含經曰、佛  
告比丘、若以諍止諍、至竟不見止、唯恐能止、諍是法、真尊貴、  
い、  
と、  
顔、  
也、  
つ、  
し、  
に、

### 人而無智也

### 不異於木石



人面畜生なるを 不異於畜生

人としめしめしむるものなりしを畜生とせしむるに意あらざるものなりし  
 されども畜生とせしめしめざる畜生とせしむるものありしを畜生とせしめざるものありし  
 りしものとす。又つぎに人の心とせしめしめたるものありしを畜生とせしめざるものありし  
 ども親小はくふあつてつぎに人の心とせしめしめたるものありしを畜生とせしめざるものありし  
 されども帰元出俗集小のひびきをくみしめしめたるものありしを畜生とせしめざるものありし  
 せしめしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 くれひびきをくみしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 らんやとみくしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 の野鶴はわれの極とみくしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 これゆへ小笠原の疏とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 わこれとあきらむしむるに二教とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし

ついでに

白樂天曰人非木石皆有情遊仙窟曰心非木石豈忘深恩  
 善導和尚觀經序分義曰不行恩孝者即畜生無異也婆  
 娑論云愚癡不能自立為他痛養故名畜生

不交之學友 何遊七尊林

三學といふ戒定慧の三つとつて仏の道とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 人のこれ戒と定と慧とをいふものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 ゆへに三學といふを安んずるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 此處安んずるといふものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 業とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 せしめたるものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし  
 是といふはつて小の七尊林分といふものありしを畜生とせしめたるものありしを畜生とせしめたるものありし



所は擇法覺三つ其精を覺つたのよき覺えつたのよき捨安覺六つ  
よの定覺七つよの捨覺八つよの三覺法教の深淺の疏神を  
に注わりの由を文のさうり三覺の修りとするす友よゆい  
てハ七覺のさうりとするふことなるは林といふよりまの  
記さうりにひくうる時ハ山の林よわけて友人とわをよゆい  
七覺と覺の林よさうりへてくよまの

# 不空如來の船

# 誰渡ハ苦海

軍二孝治とよび花教治のうらにみれ四地とあり餘  
れ海くくうるや四地を言ふといつり慈悲在捨の四つあり  
言海とよばつるがうらにみれ一とや華とよばるはけれ  
ハハ慈悲在捨のうらに對するさうりといふくうらにけれ  
へよわくよさうり三覺法補法のの由さうりたかすうら

大明三覺法教とよまこれ十七と棄ざるふくうらに  
は覺念のこゝ修しとまらり樂とわすんといふれん  
つみがうら一切のまをさうりといわんしてはハ樂事と  
とわられしと母さうり修ふとよびてまをこれと統  
養とよまこが慈とよまは慈悲とよわられしと慈とよま  
ら若とぬくすすれ修しがうら一切のまをこれ修し  
乃吾法うく修しとわわらるるは慈悲とよまはハ慈悲とい  
ふさうりまをて修しとよまは慈悲とよまは慈悲とい  
らうこれとまをこれ修しとよまは慈悲とよまは慈悲とい  
のらうらにまをこれ修しとよまは慈悲とよまは慈悲とい  
修しとよまは慈悲とよまは慈悲とよまは慈悲とい  
とわくうらにまをこれ修しとよまは慈悲とよまは慈悲とい  
とわくうらにまをこれ修しとよまは慈悲とよまは慈悲とい















曰言已若欲自立自達則必先立達他人則是有仁之者也

見他人之愁

而自共可憐

同他人之悲

則自共可悅

他人之愁のうにわれのしるをみるるはづるもこそ  
はるるも他人のうにわれのしるをみるるはづるもこそ  
よきふづるれおらりまふに世人あきゆさの他人は  
あしきこしあきこふあきこふこしあきこふあきこふ  
はるのうにわれのしるをみるるはづるもこそ  
こはれの曲めしこらりにあつるもこそあつるもこそ  
とてあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる  
他人とわれとをいれすこ

太上感應篇云見人之得如己之得見人之失如己之失

見人善をん徳の

見人悪をん怨

人れよき事とすやとえいなるるるるるるるるるるる  
くすやうにわれのしるをみるるはづるもこそ  
ろとだもあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる  
とだとてけけけとてこれの善とてけけけの徳とてけけけ  
い徳のののののののののののののののののののののの  
あつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる  
とてあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつるあつる  
とい徳のののののののののののののののののののののの

悦善をん徳

嗔悪をん怨



好名を志す招禍

死を為す隨就

の心もさうなればいふれはむきれをれゝ念ふはむくもなれぬ  
グと〜又慾と〜の心もいふれをれゝ念ふはむくもなれぬ  
のこころひ〜さるれぬ〜

六度集經卷五 建仁寺大藏經 釋家畢非經云施善福追為惡心

禍尋猶響之應聲影之追形也又罪福報應經四十一章

經虞書大禹謨孔安國注皆有此類語今畧之

治富勿忘貧

治貴勿輕賤

金張よ〜さる〜人〜も〜さる〜は〜に〜すれぬ〜さる〜は〜さる〜  
も〜た〜さる〜さる〜こ〜又〜位〜た〜ら〜さる〜人〜も〜い〜や〜さる〜人〜さる〜さる〜

いとほしき〜さる〜さる〜さる〜 貴者貧富は〜と〜は〜れ〜る〜も  
のあは〜の〜す〜人〜れ〜は〜の〜ま〜わ〜く〜に〜い〜は〜せ〜ら〜い〜さる〜こ  
明心宝鑑上正己篇云太公曰勿以貴已而賤人勿以自大而他小  
或始富忘貧 或出貴後賤

あるひ〜い〜さる〜め〜た〜ら〜れ〜さる〜さる〜さる〜さる〜は〜い〜ま〜ん  
ゆ〜り〜〜さる〜人〜も〜あり〜の〜さる〜い〜さる〜さる〜あ〜れ〜く〜い〜さる〜  
人小らやま〜れ〜さる〜人〜も〜れ〜ち〜あ〜れ〜い〜や〜〜さる〜人〜さる〜さる〜わ〜り  
文選五十五劉孝標廣絶交論云夫寒暑進退盛衰相襲  
或前榮而後悴或始富而終貧或朽存未亡云々李善註  
云說苑雍門周對孟嘗君曰臣之能令悲者先貴而後賤  
故富而  
今貧



史雜習目易の志

音聲に浮き

又易の字子雜志

書卷に博藝

正重賞目  
吉者平上  
去八十二  
調子五音  
開合等曲  
五明之中  
吉明合  
宗得博  
之宗以  
原為其家  
是亦雜習  
易志者也

まらふ時たふらひびごとく又わきまをくくればやすきハ音聲に  
のみらくも聲をたふらくことらひらうればわきまをくくれば  
しうらうこれゆふらうひらうしよ色にびくけしをたむら  
ものことと事變のうらうたうたうとやふとやふとめあう時ハ  
やうらうしよのちまうともうたれぬものハ書卷の博藝として  
ものことらう博藝は色ものとうけはひらうと藝うらうと  
わらう博は博字の博めしてははらうと藝うらうと

但るの合はるは

亦るの合はるは

食はるの合はるは食はるの合はるは食はるの合はるは食はるの合はるは  
のあふらうらうと和化のほもその食ふらうらうとくくると  
やうらうとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると

根木を農約

亦莫之校字文

農のよは思とたふらうとくくるとくくるとくくるとくくると  
はらうらうとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると  
のうらうらうとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると  
とくくるとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると  
そつらうらうとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると  
農ののうらうとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると  
とくくるとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると  
くくるとくくるとくくるとくくるとくくるとくくると







